

令和 7 年度 城東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤とし、自ら考え 正しく判断し 行動できる 豊かな心を持ち、知・徳・体の調和の取れた心身ともに健やかな、人間性豊かな児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・ ころ豊かで思いやりのある子（やさしく）
- ・ よく考えすすんで学ぶ子（かしこく）
- ・ 健康で明るくたくましい子（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の具現化を図り、児童が豊かな心を持ち、充実した学校生活が送れるよう、教職員が一丸となって取り組む学校づくりをする

～「一人一人のよりよい未来のために、子供たちの今に、全力でかかわる『チーム城東』」～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○基本目標

「人間尊重の教育」を基盤とし、自ら考え正しく判断し行動できる豊かな心を持ち、知・徳・体の調和の取れた心身ともに健やかな、「人間性豊かな児童」を育成する。※1

○目指す児童の姿

- ・ ころ豊かで思いやりのある子（やさしく）
- ・ よく考えすすんで学ぶ子（かしこく）
- ・ 健康で明るくたくましい子（たくましく）
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指し、デジタル機器を効果的に活用しながら質の高い学びの実現を図る。
- ・ 「GIGAスクール構想」の実現に向け、教育活動全体で端末を活用するとともに、発達段階に合わせたデジタルシティズンシップ教育を計画的に実施し、情報技術の利用において、自身の使い方を振り返りながら、自ら正しく判断し、責任を持ち、お互いを思いやりながら行動する力の育成を図る。
- ・ 「不登校対策」の強化を図り、不登校傾向・行き渋り傾向の児童に対し、保護者の考え・児童の心情に寄り添った居場所づくりなどの支援を共通理解のもと全職員が心掛けるとともに、関係機関との連携を図りながら、組織的に不登校対策に当たる。
- ・ 校務分掌の適正化を図り、業務の効率化や勤務時間を意識して先を見通した働き方が定着できるよう働き方改革を推進する。
- ・ 学校評価の結果を踏まえ、目標を立てて挑戦する活動を設定し、活動後の成長を振り返る活動や努力を認め励ます指導を継続し、自己肯定感を高め、自信や意欲をもって生きていけるような取り組みの実践に努める。

【旭地域学校園教育ビジョン】

「地域に愛される旭っ子の育成」～地域との豊かなかかわりを目指して～

育てたい児童生徒像

- ・ 自ら学び・考え・創造力のある児童生徒（学力向上）
- ・ やさしく互いに支え合う、心豊かな児童生徒（宮っ子心の教育）
- ・ 健康でたくましく、自他の生命を守れる児童生徒（元気アップ教育）
- ・ 自分の良さを生かし、夢を実現しようとする児童生徒（宮・未来キャリア教育）

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法, 学校教育法, 学校教育法施行令, 学校教育法施行規則, 学習指導要領, 地方教育行政の組織及び運営に関する法律, 宇都宮市立学校の管理運営に関する規則, 宮っ子未来ビジョン, 宇都宮市学校教育推進計画(うつのみやいきいき学校プラン), 宇都宮市学校教育スタンダードの示すところに従い, 本校の教育目標の達成を期するように編成する。
- (2) 教育活動全体を通して, 児童の発達段階や各教科の特性, 学習指導要領の趣旨を生かして, 知・徳・体の調和のとれた, 人間性豊かで自ら学び考えるなどの「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 特別の教科道徳を要として, 学校教育活動全体を通して児童の道徳性の育成を図るとともに, 家庭・地域社会との連携を深め, 地域の教育力を生かした教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○教職員一人一人が主体性をもち, 協力して学校運営に取り組み, 業務の効率化を図る。

- ・互いに学び合い切磋琢磨する職員集団づくりに努める。また, 業務の改善, 一人一人のライフワークバランスおよび勤務時間を意識した働き方改善に努める。(学校運営の適正化)
- ・教職員行動規範の徹底による信頼の堅持と, コンプライアンス(法令順守・服務規律の遵守)
- ・アフターコロナ時代のニーズに応えられるよう, 創意・工夫ある教育課程を編成し, 「特色ある教育活動」を推進する。(教育課程の改善)

○児童の姿を基に, 「チーム城東」を合言葉にすることにより, 学校・地域・保護者・関係機関が連携協力した学校づくりを推進する。

- ・家庭・地域の教育力を積極的に生かした教育活動の充実, 学校公開やHP・各種たより等による情報の発信, うつのみや学校マネジメントシステムによる学校運営の評価を踏まえ, 「地域とともにある学校づくり」の推進に努める。(地域とともにある学校づくりの推進)

(2) 学習指導「かしこく」

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

「宇都宮モデル」「城東スタイル」を活用し, 各場面(はっきり・じっくり・すっきり)における指導の充実を図りながら, 内容や時間のまとまり(単元や題材等)を見通した授業を展開し, 学習指導要領を着実に実施する。

- ・「じっくり」の場面においては, 他者との交流や自分自身による問い直し, 一人一台端末による情報の収集など, 児童生徒が多様な方法を選択し, 組み合わせながら, 多面的・多角的な視点により課題の解決に向かうことができるよう, きめ細かな指導や支援を行う。
- ・「すっきり」の場面においては, 児童が自らの学習成果を, 次の単元, 学年, 他教科等の学びや生活の改善などにつなげていけるよう, 自分で立てた見通しに対する振り返りを文章で書かせるなど, 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価に取り組む。
- ・すべての児童が基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着できるよう, 始めに「何をするのか」が分かり, 最後に「何ができるようになったのか」が明確になる授業を展開し, 学習上の困難さに応じて活動の目的や手順を示したり, 追及の仕方を選択したりするなど, 特別支援教育の視点も取り入れ, 個々の児童の困難さに応じた指導の充実を図り, 粘り強く自ら学ぼうとする意欲を育てる。
- ・学びの「さしすせそ」探す・調べる・筋道を立てて考える・整理する・総括するを合言葉に学ぶ楽しさを味わわせる。

○教科横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ・児童が各教科等で身につけた資質・能力を活用・発揮しながら, 相互に関連する学習内容の理解を深め, 総合的な学習の時間の探求課題や特別活動などにおける生活上の課題解決に取り組んでいくことができるよう, 指導の充実を図る。
- ・「情報モラル／デジタルシティズンシップ教育年間指導計画」に基づき, 動画の視聴等を通して具体的な事例を取り上げ, どう行動することが大切なのかを考えられるよう, 指導の充実を図ることにより, 児童

自身が自律的に責任をもって互いを思いやりながら1人1台端末を利用することができるようにする。

(3) 児童指導「やさしく」

心の教育の充実により、自信や自己有用感、たくましさ、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む。

○宮っ子心の教育の推進

- ・学校行事や体験活動において、目標を立てて挑戦する活動を設定した上で活動後に自らの活動を振り返る活動や、教職員がその努力を認め励ます指導を行い、自己肯定感を高め、自信や意欲を育むことで、挑戦する心・あきらめない心などのたくましさを涵養する。
- ・あかるく・いつも・さきに・つづけるを合言葉に、あいさつの励行や思いやりのある言葉遣い、「さん付けで呼び合う友達関係」を基本とし、全学級で継続して指導する。
- ・生活の「さしすせそ」さわやかな返事・静かな廊下・素早い集合・せつせと清掃・そろった靴箱を合言葉に、落ち着いた学校生活を送れるよう、全学級で継続して指導する。

○いじめを生まない指導・支援の充実

- ・児童主体のいじめゼロ集会や道徳科の授業等において、児童自らがいじめについて考え、意見を交わし、いじめと向き合うことにより生命や人権を尊重し、差別やいじめを許さない態度を身に付けさせるとともに規範意識の醸成を図る。
- ・インターネットに起因するいじめやトラブルの未然防止に向け、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言 Ver. 2」を活用し、学校はもとより、家庭においても親子で適切な使用方法等について考えさせるとともに、児童が主体的に判断し、適切にインターネットを使用できるよう、指導や支援の充実を図る。

○不登校対策の充実

- ・他者との関わりを学ぶ教育活動を取り入れ、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上を図るとともに、身に付けた力を発揮できる場を意図的に設定することで、達成感や自己肯定感を感じられるようにする。
- ・Q-Uの結果や個別の教育相談、欠席状況等を踏まえ、多角的・多面的に児童理解を深め、不登校の兆しの早期発見・早期対応に努める。
- ・1人1台端末を有効に活用して、児童の心の変化やSOSを早期に捉えて寄り添う支援を行うとともに、授業配信や課題のやり取り、必要に応じた適切な情報提供など、一人一人の状況に応じたきめ細かな支援に努める。
- ・個々の状況に合わせた多様な支援を行えるよう校内環境を整備し、不登校の未然防止や学校復帰に向けた校内教育支援センター的役割を担う教室を運営するなど、チーム学校で、より早期の段階から組織的・計画的な支援に努める。

(4) 元気アップ教育の推進「たくましく」

基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標を持ち、自ら学ぶ意欲を育てる。

生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

○元気アップ教育の推進

- ・学校健康教育推進計画を踏まえ「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の4つの教育を一体的にとらえ、デジタルを効果的に活用しながら「元気アップ教育」を着実に推進する。
- ・体育において、本校で低下傾向にある走力や敏捷性を高める運動や、「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた補強運動に取り組むとともに、外遊びの推奨、「うつのみや元気っ子チャレンジ」の実施など、教育活動全体を通して運動機会を創出する。
- ・定期健康診断結果に基づき、疾病の早期治療や肥満防止のため、個別のライフスタイルを踏まえた健康相談や保健指導等を通して健康の保持増進を図る。
- ・望ましい食習慣の定着を図るため、食事マナー指導や地産地消の推進、宇都宮学と関連させた給食の提供、お弁当の日の実施などを、食に関する指導の全体計画に位置づけ、給食の時間や各教科等の食に関する授業において学校全体で指導に取り組むとともに日常生活で実践できるよう、学校と家庭の双方向における指導の充実を図る。

・ 登下校の安全や自転車の乗り方等，交通安全に関する指導や日常生活で起こる事故等についての生活安全に関する指導，地震や水害等についての災害安全に関する指導，さらには新たな危機事象に関する指導を通して，自分の命を守るための判断力や実践力を育成する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通，地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価									
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 考えを書く時間を確保し，児童が自信をもって自分の考えを発表できるよう支援し，他者との協働に必要な「聞く・話す」学習の徹底と充実を図る。</p> <p>② 「城東スタイル」の元，ICTを活用し，分かる授業，学ぶ楽しさを実感できる授業を展開し，学習課題確認，振り返りの充実を図る。</p> <p>③ 身に付けた知識や情報の活用を図る時間と場を設定し，進んで表現させる。</p> <p>④ 教材，教具，課題設定や導入の工夫などを教職員間で共有する。</p> <p>⑤ 家庭学習については，宿題の量や内容の精選をして，自主学習に積極的に取り組ませるなどの指導・支援を推進する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 593 1457 674"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>85.9%</td> <td>84.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は目標値の85%を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き，城東っ子の学び「城東スタイル」の元，ICTを活用し，分かる授業，学ぶ楽しさを実感できる授業を展開し，学習課題確認，振り返りの充実を図る。 教材，教具，課題設定や導入の工夫などを教職員間で共有する。 家庭学習については，宿題の量や内容の精選をして，自主学習に積極的に取り組ませるなどの指導・支援を推進する。 授業中の「聞く・話す」学習を充実させるとともに，グループ活動などの学習形態を学習内容に合わせて意図的に計画していくこととする。 		R 6	R 7	児童	85.9%	84.4%			
	R 6	R 7											
児童	85.9%	84.4%											
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は，思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 児童会活動で「なかよしプロジェクト」を実施したり，体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施したりして，生命や人権を尊重する心や，人を思いやる心などを涵養する。</p> <p>② 縦割り班活動や縦割り班清掃を実施し，低学年から高学年まで幅広く関わり合い，良好な上下関係を構築する。</p> <p>③ 「さん付け」や温かみのある言葉づかいについて，日々の生活の中で定着できるよう継続的に指導する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1312 1457 1435"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>80.2%</td> <td>77.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>84.2%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答が，目標値の85%を下回ったが，教職員の肯定的回答は上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会活動で「なかよし集会」を実施したことは，人権教育において効果的であった。今後も時期と内容を精査し，引き続き全校集会や学年集会等の充実を図っていく。 縦割り清掃を実施することにより，低学年から高学年まで幅広く関わり合い，良好な上下関係が構築できているため，今後も実施していく。 「さん付け」や温かみのある言葉づかいについて，日々の生活の中で定着できるよう継続的に指導する。 地域の人とのふれあいなど，異なる立場の人と関わる体験的な学習の場を設け，相手を思いやる心の涵養に努める。 		R 6	R 7	児童	80.2%	77.6%	教職員	84.2%	90.0%
	R 6	R 7											
児童	80.2%	77.6%											
教職員	84.2%	90.0%											

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 学校行事や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、振り返りを重視するとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>② 作品掲示物やノート等に温かいコメントを書き、認め励ます指導の充実を図る。</p> <p>③ キャリアパスポートを有効に活用し、道徳や日常の指導においても、児童を認め、励ます指導に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 152 1457 271"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>81.1%</td> <td>84.1%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>89.5%</td> <td>80.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員ともに肯定的回答は、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学習に目標をもって取り組ませ、振り返りを重視するとともに、結果だけでなく目標の達成に向けて努力している過程を重視し、児童を認め称賛する。 ・作品掲示物やノート等に温かいコメントを書き、認め励ます指導の充実を図る。 ・キャリアパスポートを有効に活用し、道徳や日常の指導においても、児童を認め、励ます指導を心掛ける。 		R6	R7	児童	81.1%	84.1%	教職員	89.5%	80.0%			
	R6	R7													
児童	81.1%	84.1%													
教職員	89.5%	80.0%													
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、感染症予防対策も含め、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。</p> <p>② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 児童の「危険予測・回避能力」を高めるため、日常指導における安全指導を充実させるとともに、「交通安全教室」「避難訓練」「安全マップづくり」等を計画的に実施し、安全に対する意識を高めていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 824 1457 987"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>90.1%</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>89.5%</td> <td>95.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.0%</td> <td>92.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、保護者の肯定的回答は目標値の85%以上を上回った。特に、教職員は昨年度と比べても大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活を送ることができるようにするために、来年度も引き続き手洗いの徹底等、感染症予防対策について指導を継続していく。 ・感染症対策をしつつ、学校給食や各教科等の関連を図った食に関する指導を行い、児童の食習慣の形成を推進する。 ・引き続き、日常の安全指導を行うとともに、避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施し、安全に対する意識を高めていく。 ・「健康票」「元気っ子体力テスト結果」等の記録票を活用し、健康への意識の向上を図る。 ・学校行事や各教科の学習を通して防災教育に取り組むとともに、防災訓練など、地域と一体となった体験活動を推進する。 		R6	R7	児童	90.1%	88.5%	教職員	89.5%	95.0%	保護者	90.0%	92.7%
	R6	R7													
児童	90.1%	88.5%													
教職員	89.5%	95.0%													
保護者	90.0%	92.7%													

1-(4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

【数値指標】

全体アンケート

「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団の課題を解決している。」

における肯定的回答

⇒児童 85%以上

⇒教職員 90%以上

① キャリアパスポートを活用し、特別活動や学級活動の活性化を図り、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を育む。

② 児童の自己肯定感を高められるよう、なりたいたい自分の姿を具体的に示させ、それに近づけるように支援を行う。

③ 家庭や地域との連携による体験的活動を実施し、他者との協働のよさを実感できる場面を設定する。

【達成状況】

	R6	R7
児童	80.2%	82.6%
教職員	89.5%	85.0%

・児童と教職員の肯定的回答は、目標値を下回った。

【次年度の方針】

・昨年度に行った取組を確実にやり、振り返りながら児童に最適な取り組みを都度考えていく。

・キャリア教育の充実のため、外部講師を招き、将来への展望を開く機会を設ける。

・児童会活動や総合的な学習の時間を軸として協働的な学びの時間を確保し、集団の課題を解決する体験を充実させる。

B

2-(1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

全体アンケート

「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」

における肯定的回答

⇒児童 85%以上

⇒教職員 90%以上

① ALTとの事前打合せを充実させ、担任やALTと児童、児童同士が楽しくコミュニケーションを図れるような授業を計画し、実践する。

② 教職員の校内研修において、授業力向上に向けた授業実践の紹介、情報共有等を一層充実させ、授業に生かしていく。

③ 日常生活の中で、ALTと児童が交流できる場を設け、積極的にコミュニケーションを図れるよう、環境を整える。

【達成状況】

	R6	R7
児童	74.6%	71.7%
教職員	89.5%	100%

・児童の肯定的回答は目標値を下回り、教職員の肯定的回答は目標値を上回った。

【次年度の方針】

・ALTとの事前打合せを充実させ、担任やALTと児童、児童同士が楽しくコミュニケーションを図れるような授業を計画し、実践していく。

・授業において、児童同士やALTとの対話をする時間を充実させるとともに、少しでもやり取りができていく様子を英語でコミュニケーションをしていることだと認識させるように称賛する。

・授業以外の休み時間・給食・清掃などの時間にALTと児童が交流できる場を設け、コミュニケーションを図れるようにする。

B

A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、宇都宮の良さを知っている。」

における肯定的回答

⇒児童 85%以上

① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、視聴覚教材、市のホームページ、「宇都宮学」の副読本等を活用したり、校外学習で体験学習を行ったりして、児童が宇都宮の良さを実感できるような指導を実践する。

② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるよう努める。

③ 児童が宇都宮の良さを実感できるような掲示物・展示物の工夫を図る。

④ 全校集会などで宇都宮について扱い、宇都宮のよさについて知る機会を増やす。

【達成状況】

	R6	R7
児童	84.1%	80.1%

・児童の肯定的回答は目標値の85%を下回った。

【次年度の方針】

・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、視聴覚教材、市のホームページ、「宇都宮学」の副読本等を活用したり、校外学習で体験学習を行ったりして、宇都宮の良さを実感させる。

・各教科の年間指導計画を見直し、宇都宮のよさについて学ぶ単元の実施時期を検討し、自校化を図る。

・宇都宮の良さを実感できるようなコーナーを作る。

B

2- (2)
情報社会と
科学技術の
進展に対応
した教育の
推進

A 8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は、パソコンや図書等
を学習に活用している。」
における肯定的回答
⇒児童 85%以上
⇒教職員 90%以上

- ① 児童がデジタル機器を協働的な
学びに活用できるようにしてい
く。
- ② 学年に応じた、デジタル機器や図
書の利用ができるよう指導を工
夫する。
- ③ 家庭でのデジタル機器の使用に
ついて、学びのツールとして適切
に活用できるよう家庭と連携を
図る。
- ④ 読み聞かせボランティアによる
「わくわくブック隊」や、委員会
による読み聞かせ活動を、テレビ
放送で行うなどの工夫をし、読書
指導を継続していく。

B

【達成状況】

	R 6	R 7
児童	85.0%	85.7%
教職員	94.7%	100%

・児童、教職員共に肯定的回答が、目標
値の85%を上回った。

【次年度の方針】

- ・児童がデジタル機器を協働的な学
びに活用できるようにしていく。
- ・学年に応じた、デジタル機器や図
書の利用ができるよう指導を工夫する。
- ・家庭でのデジタル機器の使用につ
いて、学びのツールとして適切に活
用できるよう家庭と連携を図る。
- ・読み聞かせボランティア「わくわ
くブック隊」による朝の読み聞かせ、
昼休みの「おはなしこんにちは」
や、委員会による読み聞かせ活動
を行うなどの工夫をし、読書指導
を継続していく。

2- (3)
持続可能な
社会の実現
に向けた担
い手を育む
教育の推進

A 9 児童は、「持続可能な社
会」について、関心をも
っている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は、「持続可能な社会」
について、関心をもってい
る。」
における肯定的回答
⇒児童 85%以上
⇒教職員 85%以上

- ① 「持続可能な社会」について、関
心をもたせるために、身近な給食
指導において食について考えさ
せ、健康や食料の大切さに対する
意識を高める。
- ② 児童会活動(特に委員会活動)、城
東タイム、総合的な学習、各教科
の学習等を通して、学校全体で環
境問題への関心を高め、環境と調
和しながら生きる意識や態度の
育成を推進する。
- ③ 図書室の SDGs の関連書籍等を活
用し、児童の関心を高め、知識を
深める。

B

【達成状況】

	R 6	R 7
児童	82.0%	81.3%
教職員	63.2%	75.0%

・児童の肯定的回答は目標値よりも下
回った。教職員の肯定的回答も昨年度
より大幅に上がったものの、目標値を
下回った。

【次年度の方針】

- ・「持続可能な社会」について、既に取
り組んでいることに意識をもたせる
ために、「持続可能な社会＝SDGs」と
いうことを児童に周知し、身近な給食
指導や教科等で計画的に取り扱い、
SDGs に対する意識を高める。
- ・児童会活動、城東タイム(総合的な学
習の時間)、各教科の学習等を通して、
学校全体で環境問題への関心を高め、
環境と調和しながら生きる意識や態
度の育成を推進する。
- ・図書室の SDGs の関連書籍等を活用し、
児童、教職員共に関心を高め、知識を
深める。(SDGs 関連書籍を各学級文庫
で紹介する等)

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 毎週1回放課後の打ち合わせ時に児童指導連絡会や特別支援委員会を行い、支援を必要とする児童について全教職員で支援の方針等について共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 特別な支援の必要な児童については、個別の支援計画を作成し、それに基づいた指導を行うとともに、家庭との連絡も密に行っていく。</p> <p>③ 必要に応じて、ケース会議を開き、組織的対応や家庭への連絡を徹底していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 165 1455 248"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>85.0%</td> </tr> </table> <p>・目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も、今年度行った取組を実施するとともに、支援が必要な家庭、児童のケース会議を積極的に開き、よりよい支援の在り方について全職員で模索していく。</p>		R6	R7	教職員	100.0%	85.0%			
	R6	R7										
教職員	100.0%	85.0%										
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学級活動や道徳、全校集会等で、いじめが許されない行為であることを日常的に指導し、思いやりや助け合い、規範意識等の心を育て、人権感覚の向上や望ましい人間関係を築く力の育成を図る。</p> <p>② いじめアンケートを定期的に実施し、教育相談等に活用し、児童の実態を日常的に把握・いじめの早期発見、防止に努めると共に、保護者との連携を深めていく。</p> <p>③ いじめゼロ月間では標語を募集し、児童に周知していくことでいじめ予防に努めていく。</p> <p>④ 児童の様子について職員間で情報共有や共通理解を図り、組織的に対応する。</p> <p>⑤ 児童の様子について職員間で情報共有や共通理解を図り、組織的に対応する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 651 1455 775"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>93.4%</td> <td>90.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.0%</td> <td>79.4%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答は目標値を上回ったが、保護者は下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も児童の様子について職員間で情報共有や共通理解を図り、教職員による組織的な対応について考えていく。</p> <p>・いじめ学校基本計画を利用した研修等を行い職員一人一人がいじめについての認識を高め、対応の方法等について理解を深められるようにする。</p>		R6	R7	児童	93.4%	90.3%	保護者	77.0%	79.4%
	R6	R7										
児童	93.4%	90.3%										
保護者	77.0%	79.4%										
<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努め、学級活動等で、お互いの良さや頑張り等の跡を可視化し、累積していく。</p> <p>② 「積極的に毎日一声かけて関わり続け」を合言葉に、児童の困り感に寄り添い、支援する。</p> <p>③ 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童について、組織的に対応し、チームとして複数で関わったり、ケース会議で対応を検討したりして、校内全体の情報共有を図る。</p> <p>④ 情報を職員全体で共有し、学校全体での組織的な対応として、複数で関わったり、ケース会議で対応を検討したりする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1238 1455 1361"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>91.6%</td> <td>88.2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.5%</td> <td>92.9%</td> </tr> </table> <p>・児童の肯定的回答は目標値の90%を下回ったが、保護者は上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・「積極的に毎日一声かけてかかわり続け」を意識し、児童に寄り添い、支援するようにする。</p> <p>・学校としての組織的な対応として、ケース会議で対応を検討し、チームの中で役割を決め、複数で関わったり、職員間で情報を共有したりしていく。</p> <p>・Q-Uに関する研修を行い、各学級担任が児童の実態を把握し、適切な指導支援を行うようにする。</p> <p>・学級経営に関する研修を行い、学校全体の学級経営力を高める。</p>		R6	R7	児童	91.6%	88.2%	保護者	84.5%	92.9%	
	R6	R7										
児童	91.6%	88.2%										
保護者	84.5%	92.9%										
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p>	<p>① 学校行事や学級活動、児童会活動等において、児童が主体的に活躍したり、活動を振り返ってよさを実感したりできる場や、教師が認</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1899 1455 1982"> <tr> <td></td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </table>		R6	R7	教職員	100%	100%			
	R6	R7										
教職員	100%	100%										

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童が明るくいきいきと学校瀬克を送れるようにしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>め励ます場を設け、自己有用感や自己肯定感を高めていく。</p> <p>② 外国人児童や多様な教育的ニーズをもつ児童について全教職員で共通理解を行い、組織的な支援を行っていく。</p> <p>③ 日常生活や授業の場において、児童相互が国籍や文化、個性の違いを認め合い尊重し合いながら生活できるような指導をしている。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回り、100%の肯定的回答だった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校行事や学級活動、児童会活動等において、児童が主体的に活躍したり、活動を振り返ってよさを実感したりできる場や、教師が認め励ます場を設け、自己有用感や自己肯定感を高めていく。 ・外国人児童や多様な教育的ニーズをもつ児童について全教職員で共通理解を行い、組織的な支援を行っていく。 ・日常生活や授業の場において、児童相互が国籍や文化、個性の違いを認め合い尊重し合いながら生活できるような指導をしていく。 												
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 課題設定・ふりかえりの工夫、「対話的な学び」の場の設定、「城東スタイル」を活用した授業の充実、デジタル機器の活用や体験学習等、授業の工夫・改善に努め、分かる授業を展開する。</p> <p>② 落ち着いた雰囲気や学習時間づくり及び基礎的・基本的な内容の確実な定着と個別最適な学習支援に努める。</p> <p>③ 朝のパワーアップタイムの時間の確保と内容の充実を図る。</p> <p>④ 個人懇談等において、個々の児童の学習の成果や課題について、保護者と共通理解を図る。</p> <p>⑤ 保護者や地域の方に、日々の授業や教職員の指導の様子をオープンスクールや授業参観等で公開する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 757 1457 913"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>92.2%</td> <td>89.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.2%</td> <td>85.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は目標値を上回った。しかし、児童と保護者の肯定的回答率は目標値をやや下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校課題の城東っ子の学び「城東スタイル」を活用した授業の充実、デジタル機器の活用や体験学習等の授業の工夫に努め、日常の各教科指導に生かすとともに、分かる授業を展開する。 ・保護者や地域の方に、日々の授業や教職員の指導の様子をオープンスクールや授業参観等で公開する。 ・教職員は児童の学習状況を捉えるよう努め、個人懇談等において、個々の児童の学習の成果や課題について、保護者と共通理解を図っていく。 ・職員研修や教員間の情報共有を充実させ、授業力の向上を図る。 		R 6	R 7	児童	92.2%	89.4%	教職員	100%	100%	保護者	89.2%	85.6%
	R 6	R 7													
児童	92.2%	89.4%													
教職員	100%	100%													
保護者	89.2%	85.6%													
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① A L T・少人数指導担当・図書館司書との事前打合せや情報交換の場を設けることで、より効果的な授業や学習法を目指していく。</p> <p>② 多様な専門性を有する学校スタッフとの情報交換やコミュニケーションを充実させ、児童理解を深め、個に応じた効果的な指導方法を模索していく。</p> <p>③ 個別最適化を目指し、個に応じた効果的な指導方法を模索し、情報を共有し、実践していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1615 1457 1693"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>95.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、多様な専門性を有する学校スタッフやボランティア等との情報交換やコミュニケーションを充実させ、児童理解を深めるようにしていく。 ・個別最適化を目指し、引き続き個に応じた効果的な指導方法を模索し、実践していく。 		R 6	R 7	教職員	100.0%	95.0%						
	R 6	R 7													
教職員	100.0%	95.0%													

4- (3)
学校における働き方改革の推進

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」
における肯定的回答
⇒教職員 85%以上

- ① 全職員が学校経営への参画意識をもち、チームとして課題に取り組み、業務の効率化、充実を図る。
- ② 教職員が相互に業務内容を理解し合い、それぞれの強みを生かした連携を図れるよう日々情報交換を密にしていく。

【達成状況】

	R6	R7
教職員	94.7%	95.0%

・教職員の肯定的回答は目標値を上回った。

【次年度の方針】

- ・引き続き、全職員が学校経営への参画意識をもち、チームとして課題に取り組み、児童との関わりを増やすために業務の効率化、充実を図る。
- ・教職員が相互に業務内容を理解し合い、それぞれの強みを生かした連携を図れるよう日々情報交換を密にし協力する意識をもつ。

B

5- (1)
全市的な学校運営・教育活動の充実

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」
における肯定的回答
⇒教職員 90%以上
⇒保護者 80%以上

- ① 乗り入れ授業や中学校訪問、中学生のボランティア受け入れ、あいさつ運動等の連携事業を充実させる。
- ② 小小間・小中間の「読書ゆうびん」事業を、継続して行う。
- ③ 学校だよりやHP等を通して、小中一貫の取組を、保護者へ情報発信する。

【達成状況】

	R6	R7
教職員	100%	90.0%
保護者	65.9%	72.7%

・保護者の肯定的回答は、目標値を下回った。

【次年度の方針】

- ・児童の中学校訪問、小中合同あいさつ運動、宮っ子チャレンジ(社会体験活動)、スクールカウンセラー活用等の連携事業を充実させていく。
- ・学校だよりやHP等を通して、小中一貫の取組を、保護者へ情報発信する。

B

5- (2)
主体性と独自性を生かした学校経営の推進

A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。
【数値指標】
全体アンケート
学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」
における肯定的回答
⇒保護者 85%以上
⇒地域住民 85%以上

- ① 家庭・地域の教育力を積極的に生かした教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」の推進に努める。
- ② PTA事務局や地域コーディネーターを通して、保護者や地域の方々、関係機関と連携し、生活科や総合的な学習の時間、学校行事等を実施していく。
- ③ 活動の様子をホームページや各種便りを活用し、保護者及び地域へ積極的に発信していく。

【達成状況】

	R6	R7
保護者	81.9%	86.6%
地域住民	91.3%	85.7%

・保護者、地域住民の肯定的回答は目標値を上回った。

【次年度の方針】

- ・家庭・地域の教育力を積極的に生かした教育活動の充実を図り、「地域とともにある学校づくり」の推進に努める。
- ・PTA事務局や地域コーディネーターを通して、保護者や地域の方々、関係機関と連携し、生活科や家庭科、総合的な学習の時間、学校行事等を実施していく。
- ・活動の様子をHPや各種便りを活用し、保護者及び地域へ積極的に発信していく。

B

5- (3)
地域と連携・協働した学校づくりの推進

6-(1)
安全で快適な学校施設整備の推進

A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」
における肯定的回答
⇒教職員 90%以上
⇒保護者 85%以上

- ① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所の改善や修繕に努めるとともに、ホームページやさくら連絡網等を通して実施状況を保護者に周知する。
- ② 実際場面で生きて働く訓練となるように避難訓練の実施方法を工夫するとともに自己判断力及び危険回避能力を高める指導を学校行事や学級活動等で行っていく。
- ③ 気温・湿度・気流状況を定期的に確認し、適切な保健指導や管理に努める。(新型コロナウイルス感染症の対策も含む。)

【達成状況】

	R 6	R 7
教職員	100.0%	100.0%
保護者	90.9%	89.0%

・教職員、保護者とも目標値を上回った。

【次年度の方針】

- ・引き続き、安全点検を実施し、危険箇所の改善や修繕に努めるとともに、ホームページ、さくら連絡網等を通して実施状況を保護者に周知する。
- ・避難訓練等の実施方法を工夫するとともに、自己判断力及び危険回避能力を高める指導を学校行事や学級活動等で実践する。
- ・気温・湿度・気流状況を定期的に確認し、適切な保健指導や管理に努める。

6-(2)
学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。
【数値指標】
全体アンケート
「教職員は、授業（授業準備を含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。」
における肯定的回答
⇒教職員 90%以上

- ① ICT支援員と連携を図り、デジタル機器を積極的に活用していく。
- ② 学年に応じたデジタル機器の効果的な活用ができるよう、環境を整備する。

【達成状況】

	R 6	R 7
教職員	100.0%	100.0%

・目標値を上回り、100%の肯定的回答だった。

【次年度の方針】

- ・ICT支援員と連携を図り、一人一台端末などのICT機器を積極的に活用していく。
- ・ICTを活用した教材、教具、課題設定や導入の工夫などを教職員間で共有する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」
における肯定的回答
⇒児童 85%以上
⇒地域住民 70%以上

- ① 「明るく、いつも、先に、続ける、目を見てあいさつ」を合言葉に、全校朝会やあいさつ運動等で、全体指導を行うとともに、「時と場に応じたあいさつ」の意識化を目指す。
 - ② 教職員による率先したあいさつや、代表委員による「あいさつ運動」を継続し、あいさつの徹底を図る。
 - ③ 強調週間を設け、地域や中学校と協力して「あいさつ運動」を実施するなど、あいさつを習慣化するための手立てを工夫する。
- * 旭学校園共通目標
- ④ あいさつについて、日常的な指導に加え、「あいさつ運動」の強調月間を設け集中的に指導したりするなどして、徹底を図る。
 - ⑤ 学校だより等で家庭や地域でもあいさつを奨励するなどの協力依頼を行う。

【達成状況】

	R 6	R 7
児童	85.9%	87.2%
地域住民	81.8%	100%

・児童、地域住民の肯定的回答は、目標値を上回った。

【次年度の方針】

- ・「あかるく・いつも・さきに・つづける」を合言葉に、全校朝会やあいさつ運動等で、全体指導を行うとともに、「時と場に応じたあいさつ」の意識化を目指す。
- ・教職員による率先したあいさつや、代表委員による「あいさつ運動」を継続し、あいさつの徹底を図る。
- ・あいさつ強調週間を設け、地域や中学校と協力して「あいさつ運動」を実施するなど、あいさつを習慣化するための手立てを工夫する。
- ・学校だより等で家庭や地域でもあいさつを奨励するなどの協力依頼を行う。

	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童はきまりやマナーを守って、生活している」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 「城東っ子の約束」を基に、全職員が同一歩調で児童指導に当たるようにする。</p> <p>② 週末に、生活目標に対する振り返りを行い、次週に生かせるようにする。</p> <p>③ 帰りの会等で、児童に一日の振り返りをさせることで、規範意識を向上していく。</p> <p>④ 学級活動や道徳、全校集会等で、日常的に指導し、人権感覚の向上を図るとともに思いやりのある行動を奨励していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 152 1455 315"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>86.8%</td> <td>88.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>63.2%</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.7%</td> <td>91.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・上昇傾向ではあるものの、児童・教職員の肯定的回答は目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「城東っ子の約束」を基に、全職員が同一歩調で児童指導に当たるようにする。 ・帰りの会等で、児童に一日の振り返りをさせることで、規範意識を向上していく。 ・教職員は月末に、生活目標に対する評価及び振り返りを行い、次月に生かせるようにする。 ・学級活動や道徳、全校集会、学校生活全般において、日常的に指導し、規範意識の向上に努める。 		R6	R7	児童	86.8%	88.2%	教職員	63.2%	80.0%	保護者	88.7%	91.7%
	R6	R7													
児童	86.8%	88.2%													
教職員	63.2%	80.0%													
保護者	88.7%	91.7%													
	<p>B3 児童は本に親しみ、読書を楽しんでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は本に親しみ、読書を楽しんでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 読み聞かせボランティア「わくわくブック隊」や「おはなし会」など地域や外部機関を活用し、児童が本に親しめる環境を整える。</p> <p>② 読書への興味関心を高められるよう毎月発行する「としょかんだより」の内容を工夫する。</p> <p>③ 本を借りることや読むことへの意欲を高められるようなイベント的な「読書月間行事」の設定を工夫する。</p> <p>④ 各教科等と関連する本を紹介したり学級に設置したりするなどして、積極的に本を活用できるような環境を整える。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 887 1323 1050"> <thead> <tr> <th></th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>78.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は目標値を上回った。しかし、児童と保護者の肯定的回答率は目標値をやや下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア「わくわくブック隊」や「おはなし会」など地域や外部機関を活用し、児童が本に親しめる環境を整える。 ・読書への興味関心を高められるよう毎月発行する「としょかんだより」の内容を工夫する。 ・各教科や活動において図書資料を活用する場を設けるとともに、積極的に本を活用できるような環境を整える。 		R7	児童	78.5%	教職員	100%	保護者	77.6%				
	R7														
児童	78.5%														
教職員	100%														
保護者	77.6%														

	<p>B 4 児童は、分かったことや気付いたことを、相手に分かりやすく伝えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、分かったことや気付いたことを、相手に分かりやすく伝えている」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 学年の発達段階に応じた「話すこと」「書くこと」の資質・能力を高める指導を充実させる。</p> <p>② 自分の考えや意見を書いて整理し、まとめるための時間を確保したり、根拠を明確にしながら伝え合える場の設定を推進したりする。</p> <p>③ デジタル機器を活用した発表の工夫を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 159 1455 286"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 6</th> <th>R 7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>79.0%</td> <td>74.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>84.2%</td> <td>90.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は、目標値と同等であった。児童の肯定的回答は目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた「話すこと」「書くこと」の資質・能力を高める指導を充実させる。 ・自分の考えや意見を書いて整理し、まとめるための時間を確保したり、根拠を明確にしながら伝え合う場の設定をしたりする。 ・デジタル機器を有効に活用した発表の工夫を図る。 		R 6	R 7	児童	79.0%	74.5%	教職員	84.2%	90.0%
	R 6	R 7										
児童	79.0%	74.5%										
教職員	84.2%	90.0%										

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

【学校運営】（教育計画）

- 1 教職員一人一人が主体性をもち、協力して学校運営に取り組み、業務の効率化を図る。
 - 教職員一人一人が責任をもって校務分掌に取り組み、業務の改善、一人一人のライフワークバランスおよび勤務時間を意識した働き方改善に努めてきたことが、学校運営の適正化に繋がった。
 - ・打合せ等の時間を活用して、教職員行動規範の徹底を呼び掛けると共に、新聞記事の配付や言葉掛けにより、社会情勢を踏まえた最新情報を共有し、課題について各自が自分事として捉えられたことが、服務規律の遵守に繋がった。
 - ・学校行事後に、成果と課題について振り返り、それらを生かして、次年度に向けて創意・工夫ある教育課程を編成することによって「特色ある教育活動」を推進することができた。
- 2 児童の姿を基に、「チーム城東」を合言葉にすることにより、学校・地域・保護者・関係機関が連携協力した学校づくりを推進する。
 - A18の項目では、保護者の肯定的回答が昨年度を上回った。今後も「チーム城東」を合言葉にして学校公開やHP・各種たより等により、積極的に情報を発信し、学校・地域・保護者・関係機関が更に連携協力していく必要がある。
 - ・交通指導員やスクールガードボランティア等の立哨指導により、登下校における児童の安全確保ができた。
 - ・地域協議会による芝桜植栽や環境ボランティアによる掲示物作成や作品展示を実施したり、学校業務や機動班の協力を得て、計画的に環境整備作業を進めたりすることで、学校環境整備に努めた。A19の項目では、教職員の肯定的回答は昨年度同様100%であった。

【学習指導】「かしこく」

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
 - 「宇都宮モデル」「城東スタイル」を活用し、各場面（はっきり・じっくり・すっきり）における指導の充実を図りながら、内容や時間のまとまり（単元や題材等）を見通した授業を展開し、学習指導要領を着実に実施することで、A3の項目において児童・保護者共に昨年度を上回り、児童が学習への意欲を高め、目標に向かって粘り強く取り組む姿に繋がったことが分かる。
 - ・「じっくり」「すっきり」の場面においては、A8において教職員の肯定的回答が100%となり、1人1台端末を有効的に活用することによって、端末活用の技能を高め、必要な情報が収集しやすくな

ったり、自分の考えを表現しやすくなったりして、達成感や意欲を高め、児童一人一人の主体的な取り組みへと繋がっていると考えられる。

- ・研修の場を設けたり、適宜教職員で話し合ったり、外部機関と連携をとったりしながら、個々の児童の困難さに応じた指導の充実を図ることができた。

2 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 「情報モラル／デジタルシティズンシップ教育年間指導計画」に基づいて指導の充実を図ることにより、A8デジタル機器の活用についての肯定的回答は、児童・教職員共に目標の85%を上回った。また、児童自身が責任をもって互いを思いやりながら1人1台端末を利用するよう指導することで、児童が各教科等で身につけた資質・能力を日常生活に生かしていくことが大切であることに気付けるようになってきた。

【児童指導】「やさしく」

1 宮っ子心の教育の推進

- ・学校行事や体験活動において、目標を立てて自らの活動を振り返る活動の工夫や、自己肯定感を高め、自信や意欲を育む活動を行うことで、A3「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」という項目の児童の肯定的回答は昨年度を上回った。
- ・あいさつの励行や思いやりのある言葉遣い、「さん付けで呼び合う」指導を全学級で継続することで、B1の項目において、児童・教職員・地域住民の肯定的回答が、昨年度を大きく上回った。

2 いじめを生まない指導・支援の充実

- いじめゼロ集会や道徳科の授業等において、生命や人権を尊重し、差別やいじめを許さない態度を身に付けさせる指導を継続して行うことで、A11の項目において児童・教職員の肯定的回答は90%を上回り、保護者の肯定的回答は、昨年度を上回った。
- ・今後も、学校と家庭が連携して児童が主体的に判断し、適切にインターネットを使用できるよう、指導の充実を図る必要がある。

3 不登校対策の充実

- A12の項目においては、保護者の肯定的回答は昨年度を上回ったが、児童・教職員に肯定的回答は昨年度を下回った。今後も、Q-Uの結果や個別の教育相談、欠席状況等を踏まえ、多角的・多面的に児童一人一人の理解を深め、不登校の兆しの早期発見・早期対応に努める必要がある。
- ・1人1台端末を活用して、毎朝「心の健康観察」（5、6年）を行うことで、児童の心の変化やSOSを早期に捉えて寄り添う支援をすることができた。
- ・外部機関と連携をとりながら、組織として、より早期の段階から組織的・計画的な支援に努める。

【健康・安全】「たくましく」

1 元気アップ教育の推進

- A3「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」の項目では、児童・保護者共に肯定的回答が昨年度を上回った。今後も、学校行事や学習に目標をもって取り組み、振り返りを重視するとともに、努力した過程を重視して認め励ます指導を継続していくことが効果的と考えられる。
- ・A4「健康や安全に気を付けて生活している」の項目では、児童・保護者の肯定的回答は目標値の85%以上を上回り、教職員は昨年度と比べても大きく上回った。下校の安全や自転車の乗り方等、交通安全に関する指導に加えて、日常生活で起こる事故等についての指導により、自分事として捉えて行動できるようになった児童が増えたためと考えられる。今後は、地震や水害等についての災害安全に関する指導等を通して、自分の命を守るための判断力や実践力も育成していく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・元気にあいさつができるようになった児童が増えて嬉しい。地域や先生方が言葉掛けを繰り返した成果である。
- ・「あいさつで笑顔の花を咲かせよう」等の立て看板を地域に掲示したことで意識が高まった。
- ・地域住民は、校内の様子を理解できない部分もあるので、評価が難しい面もあった。更に、開かれた学校を実現してほしい。
- ・宇都宮のよさを知ることにについては、児童の宇都宮での体験的活動が少なかったり、他地域に住んだことがないと分からなかったり、比べられなかったりする部分もあるので、肯定的回答があまり高くないのではないかな。
- ・デジタルの時代だが、モラル面の指導が必要である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- B1「児童の時と場に応じたあいさつ」では、児童、教職員、地域住民の肯定的回答率の向上が見られた。中学生や民生委員との「合同あいさつ運動」や児童会と地域協議会による「あいさつ標語看板」の設置等にも効果があったと考えられる。今後も、「あかるく・いつも・さきに・つづける」の合言葉を基に気持ちのよいあいさつを推奨し、更に児童の意識を高めていくとともに、保護者や地域への周知・広報に努め、一体となって意識化を図っていく。「あいさつができること」と「人の話をよく聞けること」に関しては、してもらった経験が大切であることを踏まえ、今後も、周囲の大人がしっかりあいさつをしたり、子どもの話を聞いたりできる雰囲気をつくっていききたい。
- ・B2「児童の規範意識の高揚」では、児童、教職員、保護者の肯定的回答率が向上した。今後も「城東っ子のやくそく」を基に教職員で共通理解を図りながら、児童の自己肯定感を高める指導を心掛けていく。
- ・A1「主体的な学習への取組」では、児童・教職員とも肯定的回答率が昨年度比を下回った。引き続き、「城東スタイル」の基、1人1台端末、AI活用の教職員研修を進めながら、ICTの効果的な活用を行っていく。また、学ぶ楽しさを実感できるような授業展開、教材、教具、課題の設定、導入の工夫などを教職員間で共有する。更に、「聞く・話す」学習の充実を図ると共に、活動に合わせた学習形態を意図的に計画していくなどの取組を強化していく。
- A7「宇都宮の良さ」については、児童、教職員とも肯定的回答率が宇都宮市平均を下回った。今後、各教科の年間指導計画を見直し、宇都宮の良さについて学ぶ単元の自校化を図る。また、生活科、社会、総合的な学習の時間の授業において視聴覚教材や市のホームページ、「宇都宮学」の副読本を積極的に活用したり、校外学習などの体験学習を適宜取り入れたりする。更に、校内に宇都宮について掲示するコーナーを設けるなどして、宇都宮の良さを実感できるようにする。
- A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」では、児童・教職員・地域住民の肯定的回答率が昨年度比を下回った。保護者は昨年度を上回っていることから、取り組みについては認識されてきていると考えられる。既に取り組んでいる内容も、小中一貫教育や地域学校園としての位置付けや目標を改めて整理し、更に意義ある活動となるような工夫に努め、情報配信を強化していく。